

目指せ！ モノづくり 立国

「これからの時代に沿ったモノづくりとは。日本でもやるべき」と

京都の中堅・中小企業の集まり「環の会」会長

NKE社長 中村 圭二氏に聞く



セル生産で強さ磨け

資源のないわが国は生産技術を磨き、それを強みとしてきた。生産の海外シフトで失いかけている強みを取り戻すには何が必要なのか。自動化機器メーカーとして技術を磨き、最速モノづくりを追求する京都の中堅・中小企業の集まり、環の会会長を務めるNKE（京都府長岡京市）社長の中村圭二さんに聞いた。

（京都支局長・花岡敬二）

「組立産業を支える自動化機器メーカーとして、最近の日本の製造業をどう見ていますか。」

「大企業、中小企業が一体となって磨き上げてきた生産技術が、海外進出の影響で一時的に弱まりました。だが、わが国は組立産業を中心に据えたモノづくりでやっていくしかない。ようやく最近になって大企業も国内復帰の方針に転換し始めた」

「これからの時代に沿ったモノづくりとは。日本でもやるべき」と

めるには、やはりセル生産がキーポイントになるだろう」

「すでにセル生産を取り入れる動きは盛んですが、問題はありますか。」

「量産時代は大企業が自社で生産技術を磨く一方で、われわれ自動機メーカーも受注して、共通の課題に取り組んでい

た。だが今は製品が多様化していたり、セル生産

「現時点で導入されているセル生産は効率よく組み立てるために多少の

「かつて自動化を促進する策として進めてきた機器のユニット化を強化させ、機器をネットワーク化する統合システムを確立する。同時に自社工場をセル生産のモデル工場とし、身をもって提案

「高付加価値のモノづくり、変種変量生産を極

「海外でもやるべきことを明確に分けて、日本の生産技術が発揮できるもの

低コスト・効率化手助け

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」

「低コスト・効率化手助け」